

(中国)春節要因の剥落と需要回復で3月の企業マインドは改善

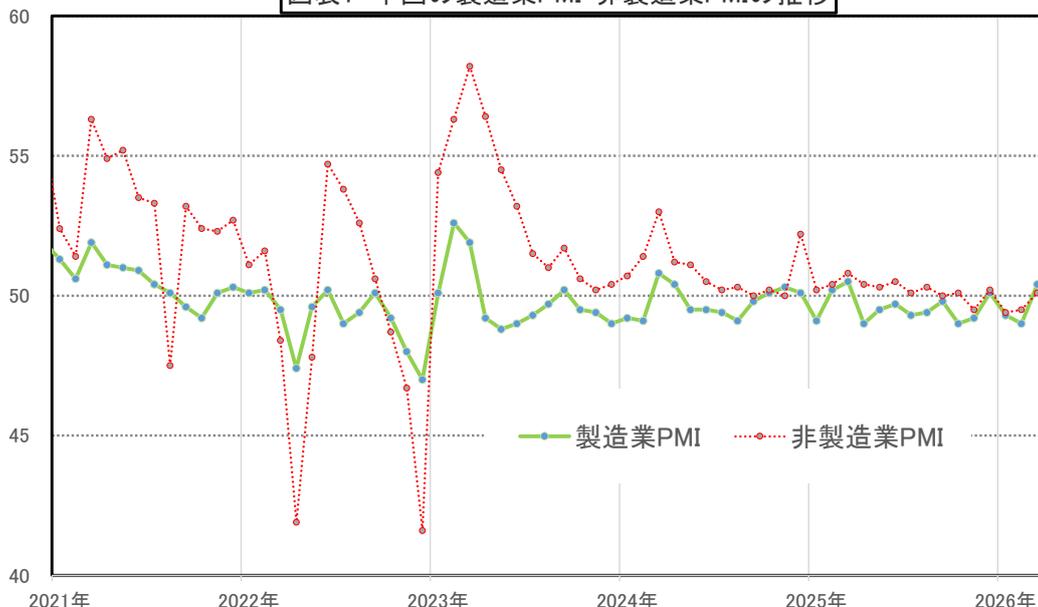
国家統計局が2026年3月31日に発表した3月の製造業PMI(購買担当者景気指数)は50.4と、3か月ぶりに景況感の分岐点である50を上回った(図表1)。改善の背景としては、春節(旧正月)要因の剥落に加え、需要回復テンポの加速が挙げられる。春節後に企業の生産活動が本格的に再開したことを受け、生産指数は51.4と2月から0.8ポイント改善した。また、新規受注指数は51.6となり、需要回復テンポの加速を示唆している。内訳を見ると、国内受注は52.0、輸出受注は49.1となった。内需拡大政策が強化されるなか、内需回復は外需を上回り、想定以上の底堅さを示した。

非製造業PMIも50.1と50を上回った(図表1)。もっとも、業種別に見ると、サービス業は50.2と改善した一方、建設業は49.3と50割れが続いており、企業マインドが依然弱い状況にある。

このように、春節要因の解消に加えて需要回復テンポが加速したことで、3月の企業マインドは総じて改善した。2026年は「第15次5カ年計画」の初年度にあたり、政府は「良いスタート」を重視した施策を積極的に打ち出しており、景気減速に対する懸念は一定程度和らいだと思われる。

今後を展望すると、政策の重点は内需拡大に置かれており、その効果は徐々に顕在化していくと見込まれる。一方で、中東情勢の緊迫化を背景とした原油価格の急騰は、工業企業の収益を圧迫する要因となる。こうした影響はタイムラグを伴って顕在化すると考えられるため、原油高が製造業に及ぼす悪影響については、引き続き注視する必要がある。

図表1 中国の製造業PMI・非製造業PMIの推移



(資料) 中国国家统计局、Windより作成、直近は26年3月。